

ニッセイ インターネットアンケート ～「夏のボーナス」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ (<https://www.nissay.co.jp>) 内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「夏のボーナス」に関するアンケートを実施いたしました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2024年6月1日（土）～6月14日（金）
- 実施方法：インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
- 回答者数：14,731名（男性：7,178名、女性：7,352名、その他・未回答：201名）

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	379	818	1,125	2,269	1,772	815	7,178
女性	557	1,077	1,209	2,241	1,506	762	7,352
合計	936	1,895	2,334	4,510	3,278	1,577	
占率	6.4%	12.9%	15.8%	30.6%	22.3%	10.7%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント① 質問 1～5

【夏のボーナスについて】

- 平均支給額は約 61.5 万円と、昨年と比べて約 3 万円増加となった。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」方の割合は 25.4%と、前年と比べて 6.5%増加した。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」額が最も多い都道府県は「東京都」、増え幅は 13.9 万円となった。
- 貯蓄・資産形成以外のボーナスの使い道は全体の約 3 割が「生活費の補てん」と回答し、子育て世帯では「教育費の補てん」が 3 位と上位にランクインした。

ポイント② 質問 6～9

【世帯支出について】

- 昨年との世帯支出を比較すると、「増えた」と回答した方が、40.7%から 49.0%へ増加した。
- 増えた支出は、全体、子育て世帯ともに生活費に関連する項目が上位となり、とりわけ「食費」が半数以上を占めた。
- 昨年からの貯蓄・資産形成にあてる金額が「変わらない」と回答した方が、66.2%となった。
- 昨年からの貯蓄・資産形成にあてる金額を増やした理由は、「新 NISA 等」が 42.4%となった。

ポイント③ 質問 10～14

【夏季休暇について】

- 夏季休暇の過ごし方について、昨年からの大きな変化は見られず、「自宅・自宅周辺で過ごす」が約半数を占めた。
- 夏季休暇の予算は昨年と比べて「増やす」方よりも「減らす」と回答した方の割合が上回った。

【夏のボーナスについて】

質問1～5について<無職、専業主婦（主夫）、自営業、公務員、パート・アルバイト、学生除き>で集計

<アンケート結果のポイント>

- ボーナスの平均支給額は約61.5万円と、昨年と比べて約3万円増加となった。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」方の割合は25.4%と、前年と比べて6.5%増加した。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」額が最も多い都道府県は「東京都」、増え幅は13.9万円となった。
- 今回のボーナスに半数近くの方は「満足していない」と回答した。

質問1 ボーナスの支給額はいくらでしたか？（回答者数：4,364名）

■ボーナスの平均支給額

2024年 (万円)				2023年 (万円)			
		男性	女性			男性	女性
～20代	36.2	46.2	28.7	～20代	32.7	38.9	27.2
30代	51.2	62.1	38.7	30代	46.9	56.2	35.0
40代	61.5	73.2	42.5	40代	61.8	69.8	46.6
50代	76.1	88.8	48.2	50代	69.9	79.9	44.8
60代	54.8	60.6	37.1	60代	49.9	53.9	35.8
70代～	37.2	53.3	20.0	70代～	46.3	44.2	50.0
平均	61.5	73.8	40.7	平均	58.6	68.0	40.0

**昨年と比べて
約3万円増加**

質問2 支給額は昨年と比較して増えましたか？減りましたか？（回答者数：4,831名）

■ボーナスの支給額は昨年と比較して増えたか

	(%)				
	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
増えた	25.4	18.9	15.2	12.7	7.5
減った	15.6	19.6	20.6	27.6	30.1
変わらない	59.1	61.5	64.3	59.7	62.4

■昨年と比べて金額が増えた都道府県

(万円)		
順位	都道府県名	増えた額
1位	東京都	13.9
2位	福井県	11.4
3位	茨城県	11.2
4位	奈良県	11.1
5位	宮城県	10.8
5位	神奈川県	10.8

**コロナ禍の2020年以降、
「増えた」と回答する方が4年連続で増加**

※海外を除く
※回答者が5名未満の都道府県は除く

質問3 今回のボーナスに満足していますか？（回答者数：5,895名）

■今回のボーナスに満足しているか

(%)

内容	2024年
とても満足している	6.0
まあまあ満足している	21.3
どちらとも言えない	29.6
あまり満足していない	17.2
全然満足していない	26.0

半数近くは「満足していない」と回答

<アンケート結果のポイント>

- ボーナスを貯蓄・資産形成に「回さない」方は21.9%となり、昨年から3.2%減少した。
- 貯蓄・資産形成以外のボーナスの使い道は全体の約3割が「生活費の補てん」と回答し、子育て世帯では「教育費の補てん」が3位と上位にランクインした。

質問4 ボーナス全額の何割を、貯蓄・資産形成に回しますか？（回答者数：4,218名）

■貯蓄・資産形成に回す割合

2024年 (%)

	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
回さない	21.9	21.2	16.9	20.5	21.1	33.5	40.7
1割未満	5.5	7.3	6.3	5.1	5.5	3.9	3.7
1～2割未満	11.8	12.7	13.2	14.9	9.6	10.0	14.8
2～4割未満	12.5	13.7	14.0	13.8	11.7	9.5	11.1
4～6割未満	16.7	19.3	17.7	16.0	17.0	13.9	14.8
6～8割未満	10.1	12.9	10.1	8.5	11.4	7.1	3.7
8～10割未満	8.7	7.1	10.2	7.8	9.7	6.3	7.4
10割（全額）	12.8	5.9	11.7	13.4	14.0	15.8	3.7

2023年 (%)

	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
回さない	25.1	20.9	17.5	19.0	22.0	43.6	70.7
1～2割未満	16.4	22.3	19.1	18.4	15.5	11.9	6.4
2～4割未満	13.8	22.6	17.2	14.3	12.9	9.3	2.9
4～6割未満	14.8	14.8	14.9	15.7	16.7	9.8	7.1
6～8割未満	10.8	8.4	12.5	11.6	11.9	6.9	5.0
8～10割未満	8.7	4.7	8.7	10.2	9.7	7.4	3.6
10割（全額）	10.4	6.1	10.1	10.8	11.3	11.1	4.3

質問 5 今回のボーナスを貯蓄・資産形成以外で主に何に使いますか？（回答者数：3,749名）

■貯蓄・資産形成以外のボーナスの使い道

全体 (%)			子育て世帯 (%)		
順位	内容	占率	順位	内容	占率
1位	生活費の補てん	19.8	1位	生活費の補てん	23.4
2位	国内旅行（宿泊あり）	16.0	2位	国内旅行（宿泊あり）	14.1
3位	買い物（自分の欲しいもの）	14.1	3位	教育費の補てん	12.9
4位	ローンの返済	7.5	4位	買い物（自分の欲しいもの）	8.2
5位	その他	6.6	4位	ローンの返済	8.2

※扶養対象のお子様ありと回答した方を「子育て世帯」と表記

子育て世帯では「教育費の補てん」が 3 位にランクインしている

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト やじま やすひで 矢嶋 康次のコメント>



2024年の春闘では、賃上げ率が+5.17%と前年+3.67%からさらに上昇し、33年ぶりに5%を超えました。ボーナスの平均支給額や、ボーナスが「増えた」と答えた方の増加は、こうした賃上げを反映したものだと考えられます。ただ、今回のボーナスに対して「あまり満足していない」「全然満足していない」と答えた方も半数近くいらっしゃいます。物価の影響を考慮した実質賃金は、2022年4月から25カ月連続減と、賃上げ効果を十分に実感できていない人も多いのではないのでしょうか。

今回のボーナスの使い道については、貯蓄・資産形成に回すという方が増えています。最近の株高や物価上昇、新NISA制度の開始を受けて、資産形成への意識が高まったのではないかと思います。貯蓄・資産形成以外では、「生活費の補てん」「国内旅行(宿泊あり)」が上位に挙がっています。コロナ禍以降のリベンジ消費がある一方で、生活が厳しくなりつつある実態を伺わせる内容です。とりわけ、教育費が嵩む子育て世帯の負担が大きくなっているようです。

【世帯支出について】

質問9について<質問8で「増えた」と回答いただいた方>で集計

<アンケート結果のポイント>

- 昨年との世帯支出を比べると、「増えた」と回答した方が、40.7%から49.0%へ増加した。
- 増えた支出は、全体、子育て世帯ともに生活費に関連する項目が上位となり、とりわけ「食費」が半数以上を占めた。
- 昨年から貯蓄・資産形成にあてる金額が「変わらない」と回答した方が、66.2%となった。
- 昨年から貯蓄・資産形成にあてる金額を増やした理由は、「新NISA等」が42.4%となった。

質問6 昨年と比べて、ひと月当たりの世帯支出に増減はありましたか？（回答者数：14,731名）

■昨年と比べた世帯支出（ひと月当たり）の増減

								(%)	(%)	(%)
2024年		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	2023年	2022年	
								全体	全体	
増えた	49.0	49.6	56.7	58.0	51.2	41.9	34.1	40.7	35.3	
減った	7.5	5.1	5.6	5.9	7.6	10.4	7.6	7.1	11.0	
変わらない	43.5	45.3	37.7	36.1	41.2	47.7	58.3	52.2	53.7	

世帯支出が「増えた」割合は昨年同様に増加傾向

質問7 主にどのような支出が増えましたか？（回答者数：7,010名）

■昨年と比べて「増えた」支出

全体			(%)
順位	内容	占率	
1位	食費	52.3	
2位	光熱・水道費	24.2	
3位	その他	6.9	
4位	日用品（備蓄品）購入費	6.5	
5位	教養娯楽費	3.5	

子育て世帯			(%)
順位	内容	占率	
1位	食費	51.6	
2位	光熱・水道費	21.2	
3位	日用品（備蓄品）購入費	7.9	
4位	その他	7.5	
5位	教養娯楽費	7.4	

※扶養対象のお子様ありと回答した方を「子育て世帯」と表記

質問8 昨年と比べて、貯蓄・資産形成にあてる金額に増減はありましたか？（回答者数：14,731名）

■昨年と比べた、貯蓄・資産形成にあてる金額の増減

								(%)
合計		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	
増えた	14.7	21.9	21.1	17.5	14.5	10.9	6.9	
減った	19.1	14.4	16.0	18.5	18.0	24.4	18.3	
変わらない	66.2	63.7	62.8	64.0	67.4	64.7	74.8	

質問9 貯蓄・資産形成にあてる金額を増やした理由は何ですか？（回答者数：2,102名）

■貯蓄・資産形成にあてる金額を増やした理由

(%)

合計		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
新NISA制度等	42.4	24.1	42.0	46.9	45.8	45.3	31.0
収入の増加	34.0	48.3	40.5	33.2	31.5	24.8	32.0
ライフスタイルの変化	11.5	19.7	11.5	10.3	10.8	9.4	11.0
その他	8.0	4.4	2.0	7.6	6.6	14.8	25.0
各種支出の減少	4.1	3.4	4.1	2.0	5.2	5.7	1.0

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋 康次やじま やすひでのコメント>

2022年度以降、物価は日本銀行が「物価安定の目標」として定める前年比上昇率2%を上回る状況が続いています。昨年と比較した世帯支出は2022年以降、2年連続して「増えた」と回答した方が増え、家計に物価上昇の影響が出ている様子が伺えます。

昨年は、食料品を中心に、多くの品目で値上がりが続きました。中華麺、卵、食用油など、私たちの生活に深く結びついた品目で上昇が続き、家計にも大きな影響があったのではないのでしょうか。実際「食費」は、昨年に比べて「増えた」支出の上位に挙げられます。また、「光熱・水道費」が増えたとの回答も多くみられます。足元では、政府による激変緩和措置の再開といった話も聞かれますが、今年も「節電の夏」であることに変わりはないでしょう。

なお、貯蓄・資産形成にあてる金額に大きな変化は見られませんが、増やした人の多くは新NISA制度を理由の1つに挙げています。日本人はリスク性資産の保有割合が低く、金融資産から恩恵を受けられる人が多くありませんでした。今後「貯蓄から投資へ」という流れが進み、第2の所得の柱となって、消費を下支えする力となるか注目です。

【夏季休暇の過ごし方】

<アンケート結果のポイント>

- 夏季休暇の過ごし方は昨年からの大きな変化がなく、「自宅・自宅周辺で過ごす」が約半数を占めた。
- 夏季休暇の予算は昨年に比べて「増やす」方よりも「減らす」と回答した方の割合が上回った。

質問 10 今年の夏季休暇は何をして過ごす予定ですか？ (回答者数：14,731名)

質問 11 昨年の夏季休暇は何をして過ごしましたか？ (回答者数：14,731名)

■今年の夏季休暇は何をして過ごす予定か

順位	内容	占率 (%)
1位	自宅・自宅周辺で過ごす	48.4
2位	国内旅行 (宿泊あり)	16.3
3位	近場のレジャー (日帰り)	10.2
4位	帰省	9.6
5位	海外旅行	3.2

■昨年の夏季休暇は何をして過ごしたか

順位	内容	占率 (%)
1位	自宅・自宅周辺で過ごす	48.8
2位	国内旅行 (宿泊あり)	17.1
3位	近場のレジャー (日帰り)	10.0
3位	帰省	10.0
5位	海外旅行	2.9

今年も昨年と同様「自宅・自宅周辺で過ごす」方が半数を占めた

質問 12 今年の夏季休暇の予算は昨年と比べて増やしますか？減らしますか？ (回答者数：14,731名)

■夏季休暇の予算は昨年と比べて増やすか

		2024年 (%)						2023年 (%)
2024年		~20代	30代	40代	50代	60代	70代~	全体
増やす	9.6	15.5	11.6	11.3	9.1	7.8	6.2	12.5
減らす	13.0	14.5	14.6	14.0	12.8	13.1	9.4	9.7
変わらない	77.4	70.0	73.8	74.7	78.1	79.1	84.4	77.8

質問 13 今年の夏季休暇の予算はいくらですか？ (回答者数：14,731名)

質問 14 昨年の夏季休暇の予算はいくらでしたか？ (回答者数：14,731名)

■今年の夏季休暇の予算

平均予算	58,000円
------	---------

■昨年の夏季休暇の予算

平均予算	57,000円
------	---------

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋 康次やじま やすひでのコメント>

夏季休暇の過ごし方は2023年から大きな変化はなく、今年も「自宅・自宅周辺で過ごす」と回答の方が約半数を占めていました。一方で、外出を計画している方も一定数おり、アフターコロナのリベンジ消費が続いている様子も伺えます。

ただ、夏季休暇の平均予算額は2023年比で千円増えたものの、昨年に比べて「減らす」と回答した方は「増やす」と回答した方より多く、物価上昇でレジャー価格が値上がりする中、消去法的に近場が選択される割合が多いのではないかと思います。「海外旅行」を選択した方も増えてはいますが、長引く円安の影響を考慮した計画となっているのではないのでしょうか。

今年は、物価上昇がある程度落ち着き、2024年後半には実質賃金がプラスに転じることが予想されます。多くの人が賃金上昇を実感し、消費を増やすことができれば、経済の好循環が回り始めます。好循環は賃上げにより持続性が高まります。今後も賃金の動向には要注目です。

以 上

2024-971G, 広報部